

2020東京オリンピック・パラリンピック事前キャンプ地誘致に向けて①

福岡県 飯塚市

2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されるにあたり、飯塚市ではパラリンピック競技である、車いすテニスの事前キャンプ地の誘致を目指し、南アフリカ共和国のホストタウンに登録しています。

①ホストタウンに関するユニークな取組

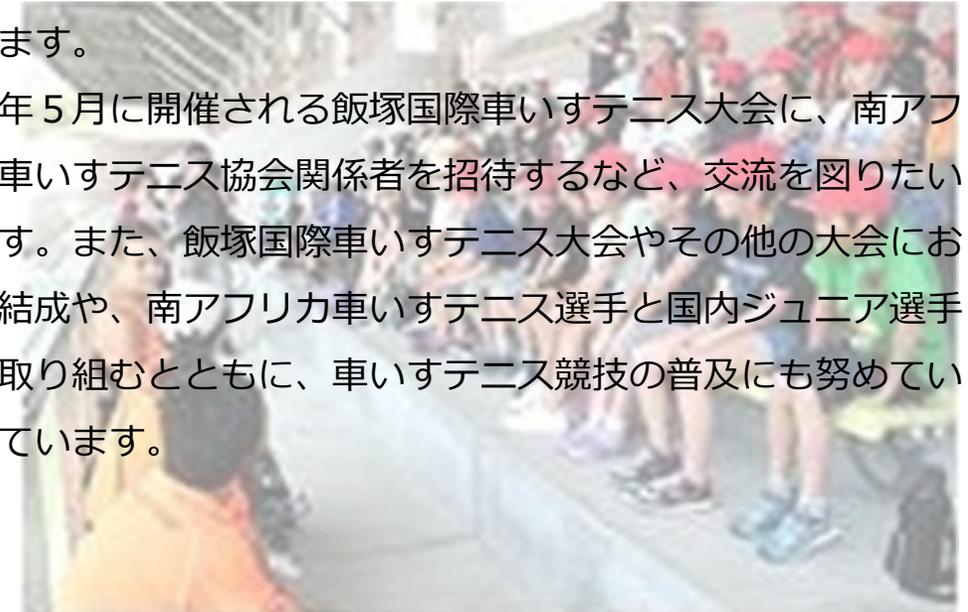
飯塚市では昭和60年から長年に亘り飯塚国際車いすテニス大会・ジャパンオープンを開催しています。この大会は、海外のトッププレーヤーも出場する大会で、大会運営にも多くの市民がボランティアで参加するなど、飯塚市挙げての大会となっています。

このことから、飯塚市では車いすテニス競技の事前キャンプ地を誘致することとしました。また、これまで多くの海外選手と交流を育んできましたが誘致対象国を南アフリカ共和国としたのは、東京の選手村に直接入村するにはリスク（距離や時間や費用など）が高く、飯塚国際車いすテニス大会に出場経験のある選手の出身国で、ITFランキング選手が10名程度は居る国などの条件をすべて満たす国だったからです。ホストタウンに関する活動としては、市内に3つある大学の南アフリカ共和国からの留学生と市内小中学生との交流を図り、南アフリカ共和国の言語や文化を学習し、日本の伝統文化を知ってもらうなどの交流を計画しています。

②2020年に向けた今後の取組

飯塚市では産学官を挙げて事前キャンプ地を誘致・支援するため、平成27年3月にキャンプ地誘致・支援実行委員会を組織し、前田恵理さんを実行委員会会長とし飯塚市を挙げて事前キャンプ地誘致実現に向けて活動しています。

今後は、毎年5月に開催される飯塚国際車いすテニス大会に、南アフリカ共和国の車いすテニス協会関係者を招待するなど、交流を図りたいと考えています。また、飯塚国際車いすテニス大会やその他の大会における応援団の結成や、南アフリカ車いすテニス選手と国内ジュニア選手との交流にも取り組むとともに、車いすテニス競技の普及にも努めていきたいと考えています。



2020東京オリンピック・パラリンピック事前キャンプ地誘致に向けて②

福岡県 飯塚市

③取組に際しての市民の反応

これまで32回開催してきた飯塚国際車いすテニス大会は、通訳や移送スタッフなどの大会運営に関して、期間中延べ2,000人の市民ボランティアが大会を支えてきました。これらボランティアの方々の熱意とおもてなしあふれる運営方式が「イイツカ方式」と称され、世界的にも高く評価されています。

車いすテニス競技の事前キャンプ地誘致が実現された際にも、市民を挙げて、この「イイツカ方式」によりおもてなしし、選手に最高のコンディションで最高のパフォーマンスを発揮してもらいたいと考えています。



④将来に残したい事

飯塚市に車いすテニス競技の事前キャンプ地を誘致した際には、選手関係者を市民挙げて支援します。このことにより、南アフリカ共和国の選手関係者と市民との交流が生まれ、キャンプ地誘致の報道等により飯塚市の知名度の向上、観光振興や地域経済の活性化など飯塚市の更なる発展も期待されます。また、事前キャンプ地を誘致するにあたり、より良い環境でコンディションづくりができるよう、テニスコートをはじめとする練習施設や宿泊施設の改修等も必要になります。

これら改修された施設は、パラリンピック大会終了後も有形の社会的遺産として、歴史ある飯塚国際車いすテニス大会を後世にまでつなげるための一助になると考えています。

